

自己評価報告書

平成 23 年 2 月 25 日現在

機関番号：14501
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20520122
 研究課題名（和文）ドイツ軍俘虜収容所における音楽活動の横断的・総合的研究
 —音楽活動記録の作成
 研究課題名（英文）A Transversal and Synthetic Study on Music Activity in Historical Data
 “A Prisoner-of War Camp of German Force in Japan”
 研究代表者 岩井正浩（IWA MASAHIRO）
 神戸大学・名誉教授
 研究者番号：80036392

研究分野：音楽人類学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：ドイツ軍俘虜、鳴門市ドイツ館、西洋音楽移入、俘虜収容所での音楽活動

1. 研究計画の概要

本研究は第一次世界大戦時に中国青島で敗戦し日本各地に収容されたドイツ軍俘虜の音楽活動に関する研究である。各地の収容所で実施された音楽活動を、収容所発行の新聞やプログラム資料を解読することで、二十世紀前半期に移入された西洋音楽を横断的・総合的に研究し音楽活動記録を作成することである。

2. 研究の進捗状況

(1) オリジナルドイツ語資料の収集

- ①板東俘虜収容所新聞『Die Barake』
- ②徳島収容所新聞『Tokushima Anzeiger』
- ③エンゲル・オーケストラその生成と発展
『Das Engel-Orchester Seine
Entstehung und Entwicklung
1914-1919』
- ④習志野収容所音楽プログラム

(2) 俘虜収容所所在地調査

- ①徳島板東 ②香川丸亀 ③千葉習志野
- ④名古屋 ⑤徳島 ⑥愛媛松山

(3) 音楽プログラムの分析・整理

- ①『Die Barake』
- ②『Tokushima Anzeiger』
- ③『Das Engel-Orchester Seine
Entstehung und Entwicklung 1914-1919』
- ④習志野収容所
- ⑤久留米収容所

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。
ドイツ語資料が確保されていること、その翻訳も順調に進展している。ただ、俘虜収容所所在地での資料および聞き取り調査はほぼ100年が経過しているため確保ができにくく遅れ気味である。

4. 今後の研究の推進方策

- 4年目となる最終年には音楽活動が行われていた久留米と青野ヶ原および名古屋に重点を絞り調査・研究を継続し、研究課題である「横断的・総合的研究—音楽活動記録の作成」を達成させる。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

- ①岩井正浩「歴史資料『板東俘虜収容所関係資料』にみる音楽活動」（愛知淑徳大学論叢 2011年）査読有

〔学会発表〕（計2件）

- ①岩井正浩
「四国3収容所におけるドイツ軍俘虜の音楽活動」
神戸大学表現文化研究会 2010年1月27日（神戸大学・兵庫県）

②岩井正浩

「四国3収容所におけるドイツ軍俘虜の
音楽活動」
東洋音楽学会全国大会 2009年10月18日
(沖縄県立芸術大学・沖縄県)

〔図書〕(計1件)

①岩井正浩

「四国3収容所におけるドイツ軍俘虜の音
楽活動」(『音の万華鏡』466P 2010年)